

令和4(2022)年度 努力目標・具体的な手段・評価基準

令和4(2022)年12月実施

教育目標・学校像	「豊かな人間性と自ら学ぶ態度を育み、地域を支える産業人を育成する」
	(1)専門的な知識・技能の習得を目指し、学ぶ楽しさや学ぶ方法を知り、将来に役立つスキルを身につける学校
	(2)地域交流や地域貢献を通して社会に役立つ人材を育てる学校
	(3)自然を対象とした学習を中心に豊かな人間性をはぐくむ学校

重点目標・評価項目	ア 魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。 ○わかる授業の実践 ○学習習慣の確立 ○資格取得の向上
	イ 自己実現を図るために、校外活動等への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。 ○進路指導の充実 ○部活動の活性化 ○地域連携活動の推進
	ウ 規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナー等の社会性、社会的自己指導能力を育成する。 ○欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活を確立させる ○時間厳守による充実した学校生活 ○挨拶の励行により活気のある学校

各部等の自己評価

重点目標		具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】
重点目標	魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。	わかる授業の実践	3.2 学ぶ意欲を持てるような授業を行うための努力がもっと必要である。また、理解を深めさせるため、実習の充実化を図る必要がある。
		学習習慣の確立	2.9 学習意欲の低い生徒が多く、習慣の確立が難しい部分がある。どうしても意欲があがるか、学校全体でのしつけを検討する必要がある。
		資格取得の向上	2.9 資格取得の重要性について繰り返し説明を行い、前向きに取り組むことができるよう継続して指導したい。
	自己実現を図るために、校外活動等への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。	進路指導の充実	3.0 進路決定後の指導が不十分な部分があったため、今後はさらに見通しを持った指導を展開していく必要がある。
		部活動の活性化	2.8 活動が盛んな部活とそうでない部活との温度差がみられたため、学校全体での活性化を目指していく必要がある。
		地域連携活動の推進	3.0 コロナ禍による影響はみられるが、工夫して実施していくことができた。今後も経験を生かして推進していきたい。
	規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナー等の社会性、社会的自己指導能力を育成する。	欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活を確立させる	2.9 コロナ禍の影響により、無理をさせないという観点から指導しづらい部分もあるが、粘り強く継続して指導していく必要がある。
		時間厳守による充実した学校生活	3.2 授業における時間管理によって指導を進めていく必要があるが、教員側にも問題点が見られるため、早急に改善していきたい。
		挨拶の励行により活気のある学校	3.1 挨拶のできる生徒・できない生徒が見られる。教員側も意識して挨拶を励行するなど、継続した指導と実践をしていく必要がある。

努力目標		具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】
教務部	重点目標関連	魅力ある授業の実践に向け、教務事務および情報提供等を積極的に行い、新しい学習指導要領の展開を円滑に行えるようにする。	2.9 観点別評価については今後も継続的に研究していく必要があるため、今後も情報発信を積極的に行い、共有化を図っていく必要がある。
		地域に開かれ、地域とともにある学校づくりに向けて、保護者や生徒、中学生および関係機関への情報発信を積極的に実施する。	3.4 ・情報管理部との連携により、学校ホームページについては見やすさや伝わりやすさを第一に設計しているほか、こまめに更新しており、学校の紹介や宣伝に大きく貢献していると思う。情報発信の重要ツールであるため、今後も重点的に取り組んでいく必要がある。 ・学校の連絡は逐一配信しているが、継続して実施したい。
		新しい学習指導要領に基づいた中・長期的ビジョンの検討と策定を実施する。	3.0 新しい学習指導要領の継続的な研究を進めながら、本校ならではの教育作りの検討を推進していきたい。
	それ以外の事項	学校教育目標達成に向けた機能的な学校組織確立のために、各種企画や連絡・調整を実施する。	3.3 ・コロナ禍の影響で時期設定に調整が必要なものもあるため、各部での見直しを継続して実施していく必要がある。の影響で通常とはずれた時期の設定のまま実施しているものもあり、各部での見直しが必要なものがある。 ・教務部内の業務効率化を目指し、各種見直しを推進していく必要がある。
		GIGAスクール構想によって配布されたタブレット端末の整備・活用	3.1 ・通信環境、保管方法、性能等の理由から、生徒が授業でタブレットを使用するにはハードルが高い。 ・Formsの利用が便利でよい。 ・現状ベストを尽くし、タブレットの保管場所を改善できた。 ・学科や課題研究で活用することができたが、多くの教科で活用できていなかった。
		校務支援システムの活用・周知	2.8 ・これまでとは異なる作業や手順を丁寧に示していた。 ・システムの問題が多く、うまく進まなかった。
情報管理部	重点目標関連	1人1台のタブレット活用に伴いタブレットの保管方法を模索するとともに、タブレットを授業や学校行事に積極的に活用する。	3.1
		各部や各学科と連携をとり、出欠管理や成績管理、進路等への活用につなげるとともに、各職員が活用できるように活用方法を周知する。	2.8
	それ以外の事項	一斉配信メールの内容を連携させ、迅速にHPに掲載する。見やすいHPを心がけ、バナーの位置等を改善する。	3.5
		貸し出し用PC、プロジェクター、スクリーン等の貸し出し状況を把握する。	2.6

学習指導部	重点目標関連	授業・実習の充実	(1)授業時間の確保のため、始業時間・終了時間の厳守する。 (2)ICTなどを活用して、分かる授業・魅力ある授業の展開を図る。	3.1	・(1)について厳守できていない人が散見された(要改善)。 ・ICTの活用ができなかった。(Wi-Fiの環境が悪い) ・教科連絡会は学年会で情報の収集で良いと思う。 ・電子黒板を活用したい。 ・情報部との連携を密にして先を見て全体に周知しなかった。
		基礎学力向上のための取り組み	朝学習の効果の実施に向けて、各学年の担当者や教科担当と連携し内容の改善と指導の徹底を図る。	2.7	・生徒の現状を含め、再検討する時期である。 ・教科及び学科と連携を取り、学習を実施することができた。 ・生徒間での取り組みに差が見られる。 ・文章を読み、意見を述べるような取り組みがあると将来的に生かせると思う。 ・ムダな時間になってしまうことが多かった。
	それ以外の事項	資格取得率の向上	(1)HRなどを活用して、生徒への各種資格取得の周知および奨励する。 (2)資格取得率向上のため、放課後等を利用して指導の充実を図る。	3.0	・学科・教科の先生を中心に呼びかけや協力など十分に機能していた。 ・数値目標を設定しても良いのではないかな。 ・3年での受験が不利益になる可能性があることを示す必要がある。 ・休み時間等を利用して指導が実施できた。
		プロジェクト活動や、ボランティア・交流活動の充実	(1)ボランティア活動の紹介と参加の奨励して、地域交流活動の充実を図る。 (2)各学科・団体のプロジェクト活動の充実を図る。	3.1	・ボランティアを奨励してはどうか。(少ない) ・なんでも許可するのではなく、認知とのバランスを配慮すべき。 ・各種活動は周知されていたが、多くの生徒が参加する所までは至らなかった ・コロナ禍であったが、団体等もありボランティアに積極的に参加する姿がみられた。 ・団体のボランティアより授業を優先すべき。
生徒指導部	重点目標関連	基本的生活習慣の確立	・遅刻が常習化している生徒への働きかけを強化し、規則正しい生活が確立するようなサポートを行い、遅刻者の延べ人数の減少を図る。 ・服装・容姿など、学校で定められた規則を遵守し、高校生としての正しい在り方について生徒の理解を促す等、自己指導能力を高める。	2.9	新型コロナウイルスに関わる欠席に対する考え方が慎重なものになっているため、あらゆる体調不良に対する指導が困難になりつつある。やむを得ないことではあるが、以前は軽微であるとみなされた遅刻・欠席理由もこの中に含まれるような状態(実際は分けて指導している)であり、全体の数が増加傾向にあった。自己管理の不備に関して明確に分かるものは、個別に指導を徹底している。
		教育相談体制の充実	・スクールカウンセラーを2名にすることで、相談可能な日程を増やす。 ・心に不安を抱える生徒が少しでも安心して学校に通えるよう、従来の校内ルール原則だけに当てはめて指導をすることなく、個々への柔軟な対応をするための調整に努める。	3.6	充実をはかった昨年と比べても、スクールカウンセラーの活用頻度が増えており、生徒の悩みを把握することができている。日常的な職員室の情報交換自体がケース会議のように行われ、個別の対策が後手にまわることが少なくなった。しかしながら、関係機関に繋ごうとした際の保護者の理解が得られないことがあり、苦慮するケースがある。
	それ以外の事項	いじめや問題行動、ネットトラブルの防止	・教員間の情報交換の機会や連携を密にし、いじめや問題行動等の発生防止に努める。 ・いじめや問題行動等の未然防止の観点から、休み時間等の巡回指導を実施する。加えて、新型コロナウイルス感染や医療従事者家族への差別などが起こることのないよう、徹底した人権配慮の呼びかけを継続していく。また、ネットトラブル未然防止のための監視を強める。	3.2	いじめ防止対策推進法に従い、些細なことでもいじめとして認知し、対応することができるようになった。いじめ対策委員会も機能しており、いじめは「起こるもの」という認識が教職員の間でも定着してきている。他校の生徒指導部との情報交換のなかで、本校のいじめ認知件数は多く、本校は新たな法律に則して職務にあたることができていることもわかっていく。また、SNSに対する監視には限界があるが、県のネットパトロールの結果報告などを活用し、重大事案に至らぬよう情報収集を行っている。
		交通規則の厳守やマナーの醸成	違反する生徒への指導を徹底し、指導を通して規則やルールを守る生徒の育成を図る。7月1日施行の自転車に関する条例を遵守できる指導体制をつくる。	3.4	自転車に関わる条例のうち、「保険加入の義務」に関しては加入率100%を達成している。努力義務である「ヘルメットの着用」に関しては、声掛けはしたものの、浸透しなかった。自転車のマナーに関する苦情は近年、かなり減少傾向にあり、引き続き指導を継続していきたい。
進路指導部	重点目標関連	進学体制と就職体制の強化	進路指導部が中心となり、学科・学年・教科との連携を図る。	3.4	・進路、学年、学科、教科の情報共有が適切に実施され連携をしながら指導ができた。 ・先を見ての指導ができたので動きやすかった。 ・連携を図ることができた。今後も協力し体制の強化に努めたい。 ・進学用小論文指導の分担が曖昧であった。 ・進路の手引きの作成を検討すべきではないかな。
		キャリア教育の推進	生徒たちが「生きる力」を身につけ、社会の変化に柔軟に対応し社会人として自立ができるよう、学校活動と意図的に関連づけ教育を実践する。	3.1	・LHRを活かし定期的に取り入れ社会人として自覚形成を促す機会を作ることができた。 ・学科に関連した外部(現場研修)との連携を増やすことができた。 ・工夫、努力はしたがまだまだ不十分な面も見られた。 ・インターシップの時期、内容を再検討させるべきではないかな。
	それ以外の事項	進路先(大学等、企業)の開拓と情報の共有化	これまでの実績を基に計画的に進路を開拓するとともに、学科の関連産業を開拓し、進路選択へ進めていく。 生徒が主体的に情報を収集できるよう進路室の情報を整理し、進路について気軽に相談ができるような風通しのよい進路指導室の環境を整える。	3.1	・適切な連携をはかりながら開拓できた。(食品、環境) ・学科関連の開拓が難しかった。(植物) ・多くの生徒が希望通りの進路に内定した。(動物) ・1-2年生の進路意識を高め、進路室を活用させたい。 ・過去の情報が少ない中進められた。今後はさらに成果が上がると考えられる。
				3.4	・レイアウト変更したのは非常に良かった。 ・進路室が明るくなり整理されたことで生徒も利用しやすくなりよかった。 ・友好的に活用し情報を得ていた生徒が多く見られた。半面、声をかけても足の向かない生徒もいたので課題が残っていました。 ・いつでも情報収集、相談しやすい雰囲気を感じられ生徒も満足していた。 ・進路室に来る情報量の多さを考えると、常駐する教員が複数いたほうがよいのではと感じた。
健康指導部	重点目標関連	健康管理意識の向上	個別に受診勧告し、受診率が向上するよう働きかける。	3.3	・終息していないコロナウイルスに対し、細かく啓発することができなかった。 ・誰がどのように怪我等をしているかどうかの把握ができていなかった。 ・要精検で引っかかってしまっている生徒は、いまだ受診してもらえない。 ・機会があるごとに啓発できた。
		生徒の安全指導に関する的確な指導	マラソン大会の安全な実施に向けて、十分に準備し全職員の協力で実施をする。 体育時での事前指導、観察や学校医等による生徒の健康状態の把握など事前準備の徹底。	3.4	・全職員での協力はできていなかった。 ・体育科の先生が事前準備をやって下さっていたため、安全に実施できた。 ・ゴール後に過換気症候群になる生徒が多かった。 ・「事前」だけ考えると、把握はできていなかった。また、生徒が自分自身の体調等の報告(連絡)もないので全体の把握はできていないと感じた。 ・健康観察について、共通理解があまりできていなかった。
	それ以外の事項	防災意識の向上	災害への適切な行動ができるよう、生徒の意識を高める防災指導、避難訓練を行う。 定期的に安全点検を実施する。	3.2	・各担当がそれぞれの持ち場を定期的に点検するなど日ごろから安全意識を持つことが重要と思う。 ・避難経路の確保は心掛けていたが、物品の管理などが反省点。もし火事になってしまった時のことを考え、教育相談室など片付けを徹底したい。 ・すべての箇所です安全点検を実施しているのかどうか不安。
		体力の向上	基礎体力の向上につながるよう、授業時にジョギング、補強運動を行う。 定期的に体力向上方法について説明する。	3.3	・基礎体力向上に努めた内容は取り入れているが、生徒の意識改革をしなければならなかったと感じた。 ・生徒が前向きに取り組める内容を考えたい。 ・体ほぐしを含めて、鬼ごっこ的なことなど、そろそろ内容を増やしても良いかと思う。単元につながるような補強もありではないかな。

特別活動部	重点目標関連	校内外の活動を通して、生徒の自主性・主体性を育む。	各学校行事において、生徒にねらいややりがい、各自の役割を事前に把握させ、ひとりひとりが主体的に動けるよう指導する。	3.0	学校行事のねらい、やりがいを考えさせ、各自の役割を把握させることはできた。役割や教職員の指示に従った行動はできる生徒がほとんどであるが、主体的に行動できているとは言えない。
			生徒会役員に学校の代表者としての自覚を持たせ、生徒会活動において自分たちの判断・意思で有意義な活動へとするために考えて行動させる。	2.6	生徒会役員に主体性が見られず指示待ちの生徒が多く、自覚を持っていないものも見られる。役員の人数が多過ぎるためスリム化を図る必要がある。
	それ以外の事項	各部活動・同好会の活性化を目指す。	日頃の活動全般において、生徒が主体的に活動できるよう職員が援助・協力する。また、各種大会・コンクール等への積極的な参加を促す。	3.3	各種大会・コンクール等において主体的に取り組むものが多いが、部員が少ない部活動や同好会が見られる。加入者を増やせるような取組が必要である。
		危機管理を徹底して各学校行事を実施する。	各種ガイドラインを遵守して各学校行事を計画・実施し、教員間・生徒間の連携を密にする。	3.3	教員間・生徒間の連携を密にし、生徒への指導を徹底したため特に大きな事故やトラブル等なく、各学校行事を実施することができた。
環境整備部	重点目標関連	学習環境の改善・整備 ※教室、実習室、準備室の整理整頓	下校時に机上、ロッカーに物を置かない状態にし、机、ロッカーを整理させて下校させる。 大掃除の際、窓、ロッカーの後ろ等日頃できない場所の清掃を徹底する。	3.3	整美委員会を通じて教室の整理整頓を呼びかけ、放課後にホームルームの清掃状況を点検したが、点検が終わると荷物が溢れかえる状況となるクラスもあり、継続的な指導が必要な状況になっている。
		学習環境の改善・整備 ※施設、設備器具の点検、計画的修繕	清掃用具入れ、ロッカーや下駄箱のフタなど破損した箇所の調査・修繕・整備を行う。 清掃用具の調査、補充を行う。	3.2	1学期に希望を聞いて2学期初めに清掃用具の補充を行ったが、分担区によっては更に追加で用具を補充する必要がある場所がある。ロッカー等の破損箇所については修繕されていない箇所もあった。
	それ以外の事項	校舎外環境の改善・整備	月に1回、担当エリアの施設設備の点検を行う。 適宜、担当エリアの薬剤散布を実施する。	3.4	概ね目標を達成することは出来た。来年度は施設設備の点検状況を記録するために点検簿を準備するとよいという意見があった。
渉外部	重点目標関連	新会長のもと、PTA組織を円滑に運営していく。	会長と連絡を密に取り、本部役員を中心に多くのクラス役員の協力を頂き、進んでPTA活動に参加してもらう。	3.2	本部役員会・理事会・栃農祭準備・マラソン大会等、平日にもかかわらず、会長を中心に本部役員クラス役員の方の6割～7割程度の協力を得て活動できた。各活動の反省をもとに、次年度も円滑な活動を心がけたい。
		感染対策を十分に行う中で、各活動を円滑に行い、PTAとして学校教育に協力していく。	感染対策に十分配慮しながら、各PTA活動を検討・実施していく。	3.2	無理のない範囲での活動を呼びかけ、感染対策を日常的に行いながら活動を実施できた。
	それ以外の事項	地域連携活動を推進する。	栃農祭や校内マラソン大会に協力するなどして、地域の方々と交流を図り、地域連携を推進する。	3.1	コロナ禍により、例年通りの実施が難しい部分があったが、栃農祭、マラソン大会ともに昨年以上の保護者の協力を得ることができた。
		渉外に関わる各種の事務手続きを滞りなく行う。	PTA・同窓会・教育諸団体の円滑な運営、事務手続きの実施に努める。	3.4	各種行事、団体において正確かつスムーズな処理がなされた。
農場部	重点目標関連	わかる授業の実践	フィールドを活用した、体験的な授業の実践。ITやグループ学習を存分に生かした、きめ細やかな生徒の指導。農家や専門機関との繋がりを持った授業の実践。	3.0	体験的な授業を各部実践している。行動制限も緩和され、外部との繋がりを持った授業ができた。今後も外部人材を活用して、魅力あるカリキュラム作りを展開していきたい。
		開かれた農場づくりのための関係機関との連携・交流・協働	「未来を創る高校生地域連携事業・協働事業」を校として、連携・交流・協働活動を推進し、生徒の積極性や意識向上を図る。最終年度として、事業を客観的かつ定量的な評価を実施する。	3.0	事業の趣旨を踏まえて、各さまざまな教育活動を展開することができた。学期末に生徒アンケートを実施し、評価をまとめていきたい。活動の成果報告については、校内課題研究発表会の中で実施し、校内で成果を共有する。
	それ以外の事項	健全な農場運営を目指す	計画的な予算の執行を行い、生徒の学習が効果的に展開できるよう農場を運営する。また、今後の農場の在り方を検討し、必要な環境を整えていく。	2.0	肥料や飼料の高騰により、農場予算がひっ迫しており、計画通りに実施できない部分があった。農場職員がそれぞれがどう在りたいかをよく検討し、そのビジョンを共有していきたい。
		広報活動の活発化	HPの更新、学外へのPR活動の実施、新聞等メディアに掲載される活動を推進する。	3.0	・昨年度の倍以上メディアで取り上げられ、学校の広報ができた。 ・受験生の情報源となるHPについては、今後も一層の充実を図りたい。

1 学年	重点目標関連	基本的な生活習慣確立のための指導	・出席率99%以上を目指す指導。 ・服装容姿、挨拶、返事をしっかりとさせる指導。	3. 2	・服装、挨拶は概ね良いが、出席率に課題が残った。 ・個別の指導を充実することで、出席率を高めた。 ・容儀指導を適宜行い、改善に繋がった。 ・生徒の服装や返事はしっかりできるようになってきた。 ・挨拶を返してくれる生徒が増えた。 ・体調不良の生徒が多く、授業復帰に向けた声掛けを行った。
	それ以外の事項	自分から進んで何事にも取り組む姿勢を確立するための指導	・学習する習慣を身につけさせ、欠点を取らないようにさせる指導。 ・まず考えて行動する習慣を身につけさせる指導。	3. 3	・学習への姿勢に改善が見られたが、自ら考えて行動することに課題がある。 ・多くの生徒が改善に向かう一方で、指導の届いていない生徒もいた。 ・時間厳守の指導を徹底し、改善が見られた。 ・称賛による指導によって改善が見られた。 ・取るべき行動と、希望を明確に言語化させるなど、声掛けに工夫をした。 ・クラス単位で学習会を行い、学力向上に努めた。
	それ以外の事項	生徒の心身のケアをおこない、生徒個人個人の能力を伸ばす指導	・生徒との面談を密にし、関係部署・保護者・関係機関との連携を密にする。 ・情報の共有をし、学年全体で当たる体制を確立する。	3. 4	・生徒の状態に適した連携を行い、早期解決に繋がった。 ・情報の共有を十分に行い早期解決に繋がった。 ・保護者との情報共有を十分に行えた。 ・生活アンケートの情報を学年会で振り返るなど、改善に繋がった。 ・共有すべき情報が判断に迷う事があり、スムーズに行かない場面があった。
2 学年	重点目標関連	自ら進んで何事にも取り組み、挑戦する姿勢を養うための指導	・考えて行動する習慣を身につけさせる。 ・学習、課外活動に積極的に取り組み、成果を上げさせる。	3. 0	・学習や課外活動に進んで取り組む生徒がいる一方で、指示がないと行動できない者も多い。 ・学習に比べ、課外活動への参加が少ない。 ・考えて行動する習慣は、十分には身につけられていない。
	それ以外の事項	社会通念に即した基本的な生活習慣を確立するための指導	・あらゆる場面で「けじめ」「メリハリ」を大事にできるようにする。 ・TPO(時間・場所・場合)をわきまえた判断・行動を身につけさせる。	2. 6	・多くの生徒は基本的な生活習慣ができているが、特定の生徒に、身だしなみや時間にルーズなどが見られ、注意してもなかなか改善が見られない。 ・挨拶や集会での様子などを見ると、「メリハリ」ができていない。 ・自己中心的な考えの生徒が多く、TPOをわきまえた行動を取れる生徒は少ない。
	それ以外の事項	進路を常に意識させ、今年度中の早い段階で、将来の方向性を決められるための指導	・日常の様々な機会を利用し、進路について考えさせる。 ・インターンシップなどを活用し、健全な職業観と各自の将来像について考えさせる。	3. 1	・進路意識が高まった生徒が多いが、一部に遅刻・欠席や成績を軽んじる者もいる。 ・インターンシップが実施できてよかった。その後、意識が変わった生徒が見受けられた。 ・進路決定後、進路について考える機会もあった。
3 学年	重点目標関連	・自分から進んでなにごとにも取り組み、創造し、挑戦するための指導	・まず考えて行動する習慣を身につけさせる。 ・学習、課外活動に積極的に取り組み、成果を上げさせる。	2. 9	・課外活動や学習に主体的に取り組むよう声掛けをし、行動を促すことができた。 ・学習への姿勢は年々よくなった。 ・進路決定後の行動及び態度に問題がある生徒への指導が徹底できない面があった。
	それ以外の事項	・社会通念に即した基本的な生活習慣確立のための指導	・あらゆることで「けじめ」「メリハリ」を大事にできるようにする。 ・その場そのときのTPOをわきまえた判断・行動・容姿を身につけさせる。(生きる力) ・社会人としての立場に置き換えた指導を行う。	2. 5	・遅刻、欠席、服装等の基本的な生活習慣が十分身につけていない生徒が見られた。 ・「社会に出た時」ということが実感として伝えられなかった。
	それ以外の事項	・進路決定を第一に考え、そのために何をすべきか考え、行動するための指導	・あらゆる機会を利用して、進路を考えさせる。 ・自己の適性を理解し、自己に合った進路を考えさせる。 ・行動・容姿が進路決定に適しているか考えさせる。	3. 0	・進路について考える機会を十分に設けることができた。 ・進路実現に向けて、各自が努力する姿が見られたが、一部不十分な生徒が出てしまった。
植物科学科	重点目標関連	学校パンフレットに示されている「地域活性化」「グローバル」「育てる経験」や「地域連携」で実践して楽しい!!」などに沿った教育活動を展開する。	講義中心の授業にならないよう工夫し、「育てる経験」や「地域連携」を実践で学べるよう魅力ある授業の展開をする。	3. 2	作業に関する実習に関しては多くの部門で実施し、説明の仕方なども工夫をしてわかりやすい授業の展開ができるように実践できた。地域連携や実験を取り入れた授業の展開を実践できたが、学年や内容に偏りがあったので、取り入れ方や学年の配分なども検討したい。
	それ以外の事項	3年生を中心に、始業前や放課後に農作物の管理や観察を定期的に行うことによって、物事に継続して取り組む力を身につける。	土地利用生産コース(作物・果樹)と園芸植物コース(野菜・草花)の選択生は、各担当教員の指示のもと収穫作業や生育調査などを行う。	3. 4	全コース・部門で実施することができたが、コースによって実施回数に偏りがあった。しかしできる内容にも限りがあり、定期的な実施は難しい場合もあるので、やり方や内容を工夫してできるだけ授業以外の場面でも作物に触れる機会を増やしていきたい。
	それ以外の事項	生徒の活動を校外へ発信し、本校のPR活動を盛んにする。	各部門(作物・果樹・野菜・草花)、毎月1回はホームページを更新し、校外へ情報を発信する。	2. 8	部門によってホームページの更新回数や内容に偏りがみられた。学科の魅力を伝えるためにも、まずは目標の達成に向けて、科内で声を掛け合いながら情報発信に努めたい。
	それ以外の事項	規律を遵守し、あいさつ・時間厳守など基本的な行動ができるよう指導し「安全安心な農産物」を生産する管理体制づくりにつとめ、職員・生徒とともに整え生産者としての意識を高める。	毎時間、生徒の作業服の着こなし等を指導し、未然の事故防止や商品の異物混入などを防ぎ、管理体制の重要性や生産者としての意識の大切さを学習させる。	3. 4	- 身だしなみについて、授業開始時に確認し、正しい服装で実習に取り組んでいる生徒は多い。 - 実習服の自己管理や実習中の集中力に甘さのある生徒も少数ではあるが、見られ、生産者としての意識をさらに高めていける指導を学科として繰り返し実施したい。

動物科学科	重点目標関連	魅力ある授業の実践	- 授業の充実を図るため、教材や飼育環境の整備を行う。 - 農家や専門機関、上級学校と連携した授業を実施する。 - PDCAサイクルを実践した授業の展開	3.0	- 未来を創る事業を活用し、教材や飼育環境を整えることができた。また、スマート農業に関する機器が導入され、授業で活用できた。 - 各機関の協力を得て、授業を実施することができた。 - 授業内におけるプロジェクト活動は、計画的に進めていく必要がある。
	重点目標関連	進路実現に向けた、校内体制の構築	- 科内職員で協力して面接や小論文指導等を実施し、進路実現を図る。(3年生) - インターンシップを円滑に実施する。(2年生) - 進路意識を高める行事を開催する。(1年生)	3.0	- 科内で協力、分担し、指導することができた。(3年) - 受入企業の確保に苦労したが、無事に実施することができた。(2年) - 専門学校見学等、予定通りの実施ができた。(1年)
	それ以外の事項	資格取得の推進	- 各学年で計画的に資格取得の指導をし、生徒たちへ成功体験を積みさせる。 - アグリマイスター顕彰制度を活用する。	3.0	- 今後も計画的に指導していく。一部、合格率が昨年度より低いものがあった。 - アグリマイスターシルバー取得者1名を出すことができた。
	それ以外の事項	学科の広報	- HPを積極的に更新し、学科の情報を外部に発信する。 - 校外の方々と交流を持ち、学科をPRする。	3.0	- HPの更新を積極的に行い、新聞広報にも掲載される機会が多かった。 - 牛の大会に参加したり、ドックショー、動物ふれあい体験を実施したりすることで、交流の幅が広がった。
食品科学科	重点目標関連	規範意識の定着・衛生管理の徹底	(1)正しい実習服の着用を指導するとともに、協力して作業をすることの大切さを実感させる。 (2)衛生面での注意・喚起を適宜行い、自ら考え実行できるようにする。	2.4	- 衛生面に関する実習を多く取り入れることができた。 - 衛生面での徹底が出来ていない場面があった。 - 忘れ物の多い生徒、衛生面に対して意識の低い生徒への対応が上手くできなかった。 - 事前アナウンス、意識向上に努める。
	重点目標関連	学習意欲を高め、専門的知識の定着を図るとともに、わかる授業を展開する	(1)座学と連携させ、基礎的な内容の実験や実習を実施する。 (2)生徒が意欲を持って取り組める学習活動を実践するために、教材研究を充実させる。	3.8	1年次の衛生に関する内容を食品製造で実施した。 - 生徒に興味を持ってもらえるような工夫をする。 - 生徒に興味を持ってもらえるような内容を取り入れることができた。
	それ以外の事項	進路実現に向けた指導の充実を図る	食品関連産業従事者育成のために、実習等で専門的な内容に触れ、職業人の育成を図るとともに、自ら主体的に行動できる人材を育成する。	2.8	- インターンシップ実施は良かったが、実際にそれが進路に結びつくかは不明。 - 食品製造業に携わる講師を招いたキャリア教育を実施できた。
	それ以外の事項	コミュニケーション能力の醸成	グループワークや地域交流活動等に参加し、体験交流の機会や他の意見に触れる機会を設ける。	3.0	- 授業の中でグループワークを取り入れることができたが、輪の中に入れない生徒に対しての声掛け等が適切だったか不安である。 - 地域交流を行事に組み込むことができた。
環境デザイン科	重点目標関連	学習意欲の向上と専門的知識・技術の定着	(1)専門学習への興味・関心・理解を高める授業を展開し、資格取得率の向上と専門的な進路選択を増やす。 (2)実習服などの身だしなみや道具の取扱、安全管理など、自主的に判断し、行動に移せるように指導していく。	3.2	- 専門学習への興味関心を高める展開ができ、生徒が理解を深め、手応えのある学習を増やすことができつつある。資格の取得率も向上しており、今年度の反省を踏まえ改善していきたい。 - 実習等で主体的に取り組む生徒が増えた。安全管理等については継続指導していきたい。
	重点目標関連	環境デザイン科ならではの魅力ある活動の実践と発信	(1)SDGsや地域連携に専門的な学習を関連させて学科の対外的な活動を増やす。 (2)日々の学習内容や校外活動などをHP等を通じて地域へ発信する。	3.0	地域での活動は一定の成果を上げつつあるが、関係機関との連携に課題を残した。また、主体的に行動できるようすることや3年間の計画については今後の課題として検討する必要がある。
	それ以外の事項	生徒の自主性・主体性の向上	(1)地域連携活動や資格取得など、生徒が自主的に取り組めるような仕組み・仕掛けを構築する。 (2)学科の学習内容を活かし、各種コンクールの応募や農業クラブの各種競技会等への参加を積極的に行う。	3.4	各種コンテスト、ボランティア活動等に参加する生徒が増え、専門的な学習活動に取り組む姿勢がよくなった傾向にある。
	それ以外の事項	カリキュラムデザインや教材などの評価並びに再検討	(1)専門学習の進め方や関係機関との連携方法について、詳細な準備を進めたり、これまで実施した内容について振り返りを行う。 (2)教材や施設・設備の準備・計画などを進め、適宜再検討も行う。	2.8	- 各種校外研修等を立案することができた。成果は今後の学習の様子によって判断することになり、検討を継続していく必要がある。 - 教材も新たに検討することができた。反省点もあり、来年度以降に活用していく必要がある。